

福山の歴史を継承し、福山の未来へつなげる交番

福山駅について真先に目に入る福山城。福山城を中心としてその周辺に建ち並ぶ歴史的建造物や文化施設、またそれらを守るように残されている城の外郭は、福山の街を象徴し、人々の心の拠りどころとなっています。そして今なおその一帯を守り、これからの未来へ受け継ごうとする地域性に大きなエネルギーを感じます。今回私たちはそのような福山の力強さを最大限かたちにした魅力あふれる交番を提案します。



周辺環境と調和し警察らしさを感じさせる魅力ある施設づくり

福山の記憶と発展

福山城周辺には石垣のみならず、かつて堀に架かっていた橋の跡や石碑等、数々の歴史的記憶が街中に刻まれています。街の発展においてもそれらは守り継承されてきました。また、2022年に築城400年を迎える福山城の外観復元を経て、さらに歴史的価値が高まることが考えられます。そして今後「福山駅前再生ビジョン」、「福山駅周辺デザイン計画」に基づく都市計画により新たな魅力が街に創生されようとしています。

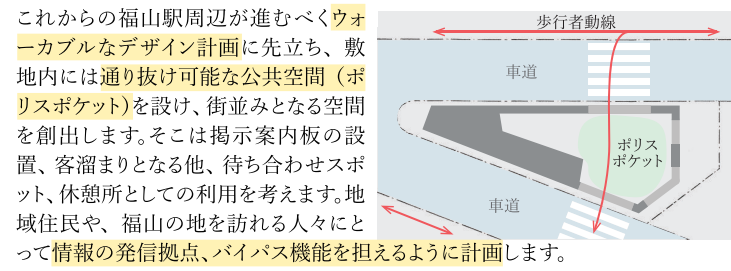


力強い「守の象徴」

敷地はかつての内堀と外堀の間に位置します。そこへ「守の象徴」としての交番を計画します。城を守る堀や石垣のように敷地に沿って外郭を設けることで、福山の記憶をこの計画に落とし込みます。地域の安全を守る要所としての堅牢性を確保し、来所者が「守られている安心感」を持つことができる施設として、また、次世代へ福山の記憶を継承するシンボルとしてこの交番を位置づけます。

周辺環境との調和

これからの福山駅周辺が進むべくウォークアブルなデザイン計画に先立ち、敷地内には通り抜け可能な公共空間（ポリスポケット）を設け、街並みとなる空間を創出します。そこは掲示案内板の設置、客溜まりとなる他、待ち合わせスポット、休憩所としての利用を考えます。地域住民や、福山の地を訪れる人々にとって情報の発信拠点、バイパス機能を担えるように計画します。



親しみやすさと力強さを兼ね備えた機能的な施設づくり

勤務員の機動力/来所者の利用しやすい動線計画

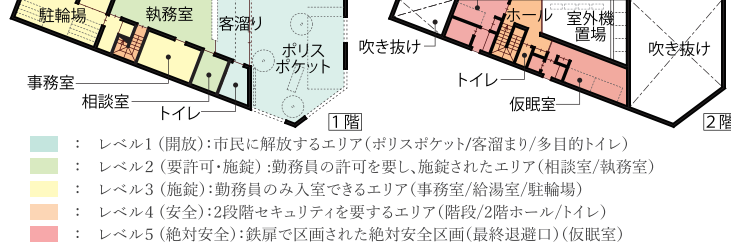
勤務員と来所者の動線を明確に分けることで、迅速な対応が求められる緊急時の混乱を避けると共に、人々が立ち寄りやすく来所者にとってわかりやすい計画とします。乳幼児を連れての利用も考慮し、多目的トイレを十分なスペース確保し計画します。

見守る交番 「ひらく」と「とじる」

敷地の形状を生かした平面形状とすることで、駅前を広く見守ることができま。また、来所者に開く部分と閉じる部分を明確に計画することで、セキュリティを確保しながら開放的な執務室と客溜りを実現します。

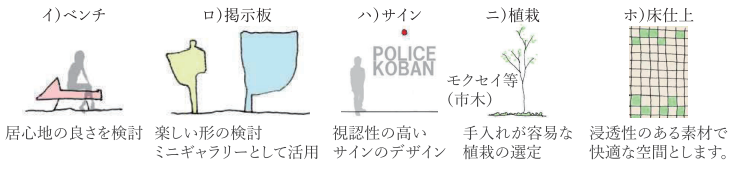
勤務員を守るセキュリティ計画 (交番セキュリティの強化)

交番機能として欠かせない対策として、段階的なセキュリティラインを設定し勤務員の安全を確保します。



にぎわいと交流を生み出す楽しい空間

ポリスポケットに楽しさや居心地の良さを創出する仕掛けを検討します。明るい公共空間を設けることで、女性や子どもも気軽に入りやすい交番を目指します。



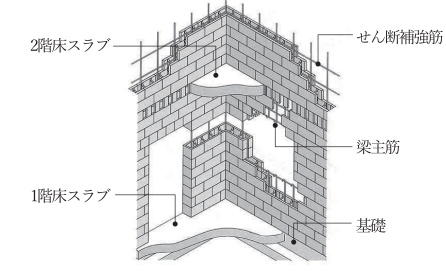
▲周囲に抜けのあるポリスポケットとすることで、閉鎖的になりがちな交番と周辺地域を結び付け、親しみのある空間を創出します。



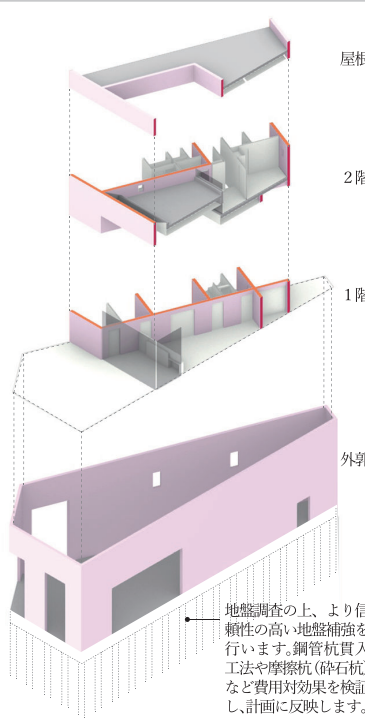
▲外壁は極力シンプルな表現とすることで、ドライバーの視線誘導に配慮します。

■構造計画

躯体構造計画
シンプルな平面・断面計画とすることで、合理的な構造計画を行い、空間の豊かさを守りつつも無駄のない建築を目指します。構造形式は、外郭を構成する主要構造部に鉄筋コンクリート組積造(RM工法)を採用し、交番としての機能性を考慮した強固な建物とします。

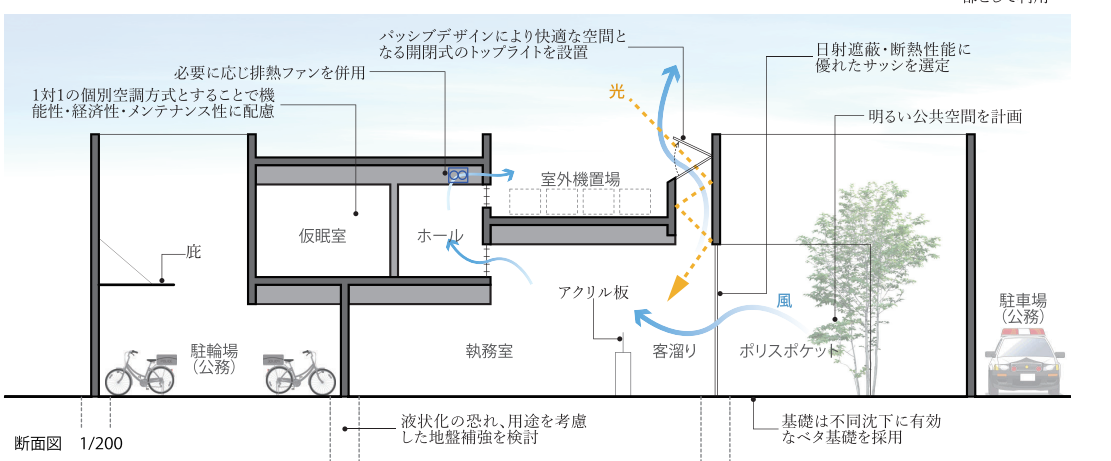
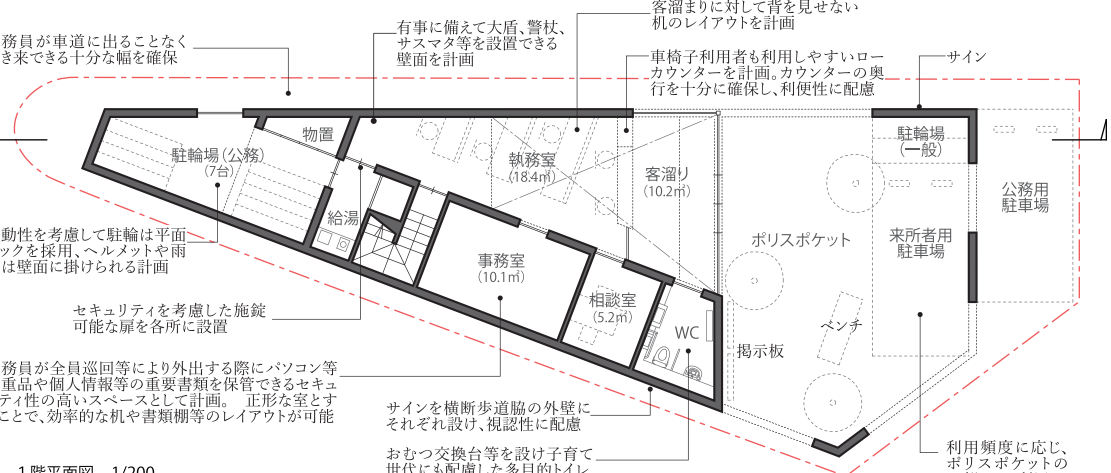
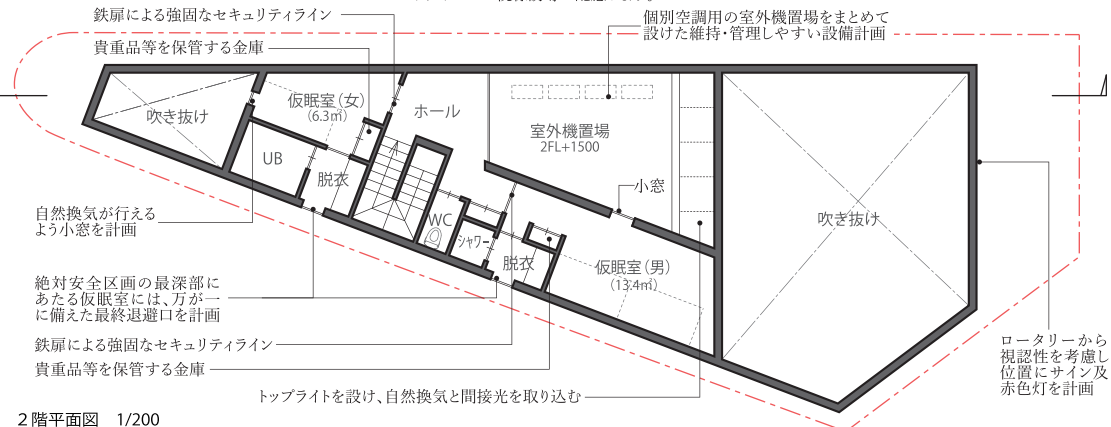
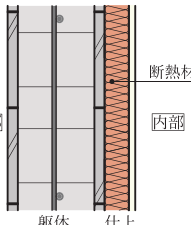


基礎の計画
基礎形状は、不同沈下に対して有効なベタ基礎を採用します。併せて地盤状況を正確に把握し、適切な地盤補強を行います。地盤の液状化も懸念されるため、液状化現象にも最大限効果を発揮する工法を採用し、大地震等の非常時にも交番としての機能をしっかりと維持できる計画とします。



■機能的な設備計画

各室の空調は、すべて個別式空調(1:1対応、壁掛けエアコン)で十分に対応可能な空間です。個別エアコンとすることで、維持管理が容易になり、修繕費用なども抑えられます。客溜まり、執務室の天井部分に溜まった熱は、トップライトより排熱し、自然換気を促します。(必要に応じて排熱ファンを併用) After/Withコロナを見据えた、感染症対策と省エネ・省CO2(温暖化対策)の観点から、室内のCO2濃度に応じた換気設備の自動制御システムの導入も検討しています。CO2濃度が高い時には空調設備の稼働を増やす一方で、濃度が低い時には換気設備の稼働を抑えることで、空調負荷の軽減を図ることが可能です。ガラス面は、内外との関係性を生み出す最低限の開口面積とすることで、日射による熱負荷を軽減させる計画としています。サッシはアルミ既製品とし、日射遮蔽・断熱性能に優れたものを採用します。外壁には、断熱材を設け、空調負荷を軽減し、快適な温熱空間となるように計画します。



■適切なコスト管理

段階ごとに検証を行い継続的なコストコントロールを図ります。また、市場動向を注視し、上昇基調の資材の使用を回避、安定供給が見込まれる部材や工場製品などを検討することで、価格変動・工期管理に柔軟に対応します。本計画においては、一般に流通している材料や工法のみを用いながらも、新しい空間を構成する計画であり、建設コストや施工性などを十分に考慮した実現性の高い計画です。

構造種別	鉄筋コンクリート組積造
延べ床面積	100㎡(30.25坪) / 施工床面積: 120㎡(36.30坪)
交番庁舎	建築工事費 40,000,000円 設備工事費 12,000,000円
外構工事費(舗装・その他、既存撤去含む)	9,300,000円
諸経費	23,303,707円
設計金額合計	84,603,707円